

第6回 鳥海ダム建設事業マネジメント委員会

事業監理の推進について

東北地方整備局 鳥海ダム工事事務所

令和5年5月29日(月)

徹底したコスト縮減に向けた今後の取り組み(案)

これまで取り組んできたものを実行するため、鳥海ダム事業監理推進室を設置し、事業監理、コスト管理を継続する

1.コスト縮減目標

・これから本格的に事業に着手することから、今後、事業を進めていく中で更なる検討や現場の実態等を踏まえたコスト縮減に取り組んでいく。

2.コスト縮減推進体制の整備

- ・鳥海ダム事業管理推進室を新設。専任の担当者を置き、オール鳥海ダムでコスト縮減に取り組むための体制を整備。
- ・組織の役割と責任を明確化し、情報共有と対応レスポンスの向上を図る。PDCAサイクルによる継続的な組織活動により、縮減目標の達成を目指す。⇒ 適切なフォローアップと継続性の確保が重要。
- ・設計コンサルタントや工事施工業者とのコミュニケーション、縮減意識の共有と醸成。⇒ 民間技術力の積極活用。

3.透明性の確保とチェック機能の充実

・取り組みの透明性を確保し、説明責任を果たすため、鳥海ダム建設事業マネジメント委員会において、目標に対する取り組み内容及び進捗状況を報告、公表。

鳥海ダムコスト縮減に向けた取り組みイメージ

Plan

鳥海ダム事業監理推進室

- ・室長 副所長(技術)
- ・事務局 専門調査官(工務課)※専任
- ・構成員 課長、係長

徹底した
コスト縮減

Do

インハウスによる取り組み

設計コンサルタントや
工事施工業者による取り組み

Action

Check

鳥海ダム建設事業マネジメント委員会

コスト縮減検討項目(案)

項目		検討の視点
計画・設計	民間技術の積極活用	<ul style="list-style-type: none"> ・BIM/CIM、建設DXの推進による業務効率化 ・新技術、工法の積極採用
施工	施工計画の点検	<ul style="list-style-type: none"> ・施工計画を点検し、より効率的な施工が可能となる場合は見直し ・冬期休止等、施工制約条件に対する柔軟な対応 ・仮設物の供用等合理化検討
	施工管理の効率化・高度化	<ul style="list-style-type: none"> ・BIM/CIM、建設DXの推進による施工効率化、プロセスの可視化・デジタルデータによる出来形確認等、監督・検査の高度化、受発注者間協議の迅速化 ・きめ細かな材料、品質管理による過剰品質の抑制
	民間技術の積極活用	<ul style="list-style-type: none"> ・施工者VEの促進、生産性向上技術の採用等
	社会的コストの低減	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出抑制、建設副産物の抑制等環境負荷の低減 ・工事車両による騒音、振動等沿道環境の保全。事故防止
維持管理	維持管理の効率化・高度化	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルコスト(LCC)を重視した設計、施工への転換 ・管理システムの標準化、簡素化 ・管理版BIM/CIM、建設DXの検討と維持管理計画への反映
	民間技術の積極活用	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔化、リモート化等、最新技術の適用検討
その他	地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民やボランティアとの協働

※今後想定される項目を抽出したものであり、現場条件等により変更する場合があります。